

## グローバル・ビジネス・アウトルック・サーベイ(速報要約版)

2013年6月(第2四半期)

2013年6月7日公表

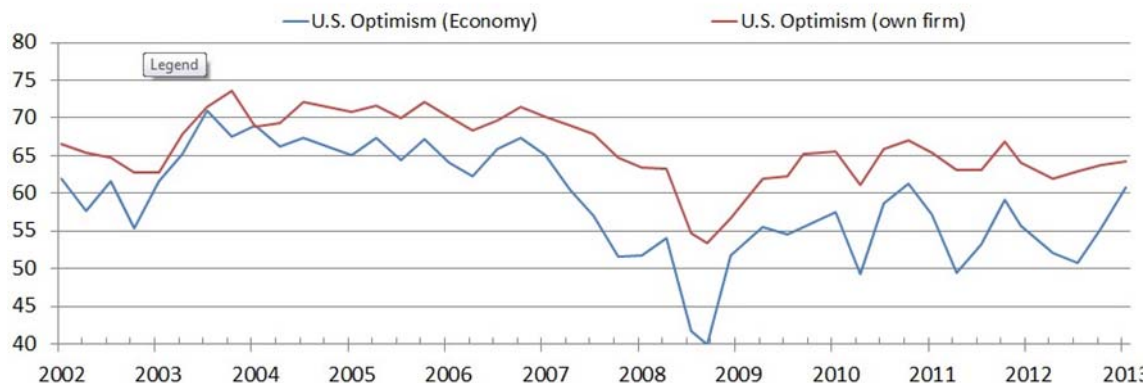
CFOサーベイ日本チーム

### 1. サーベイの概要

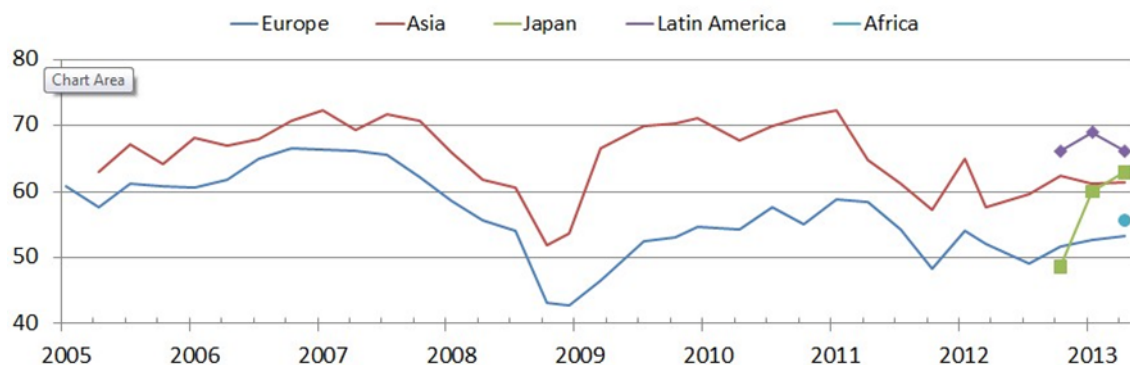
- ・2002年3月より実施(毎年3月・6月・9月・12月)
- ・対象:米国、アジア、欧州、ラテンアメリカ、アフリカのCFO
- ・今回が第69四半期の調査(日本は、第67回四半期から参加)
- ・参加者:1,112名(米国353名、アジア257名(日本のCFO74名を含む)、欧州153名、ラテンアメリカ280名、アフリカ69名)。  
今回より、アフリカのCFOが参加している。

### 2. 世界のCFOの楽観度指数

米国のCFOの自国経済および自社業績に対する楽観度指数の平均値

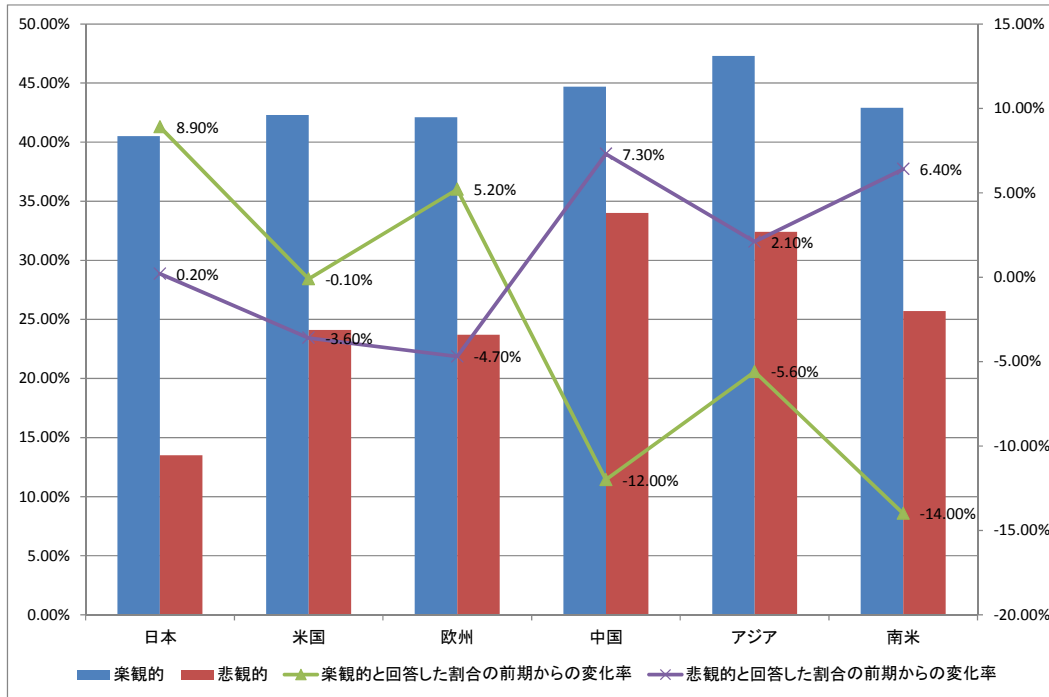


世界(米国以外)のCFOの自国経済に対する楽観度指数の平均値

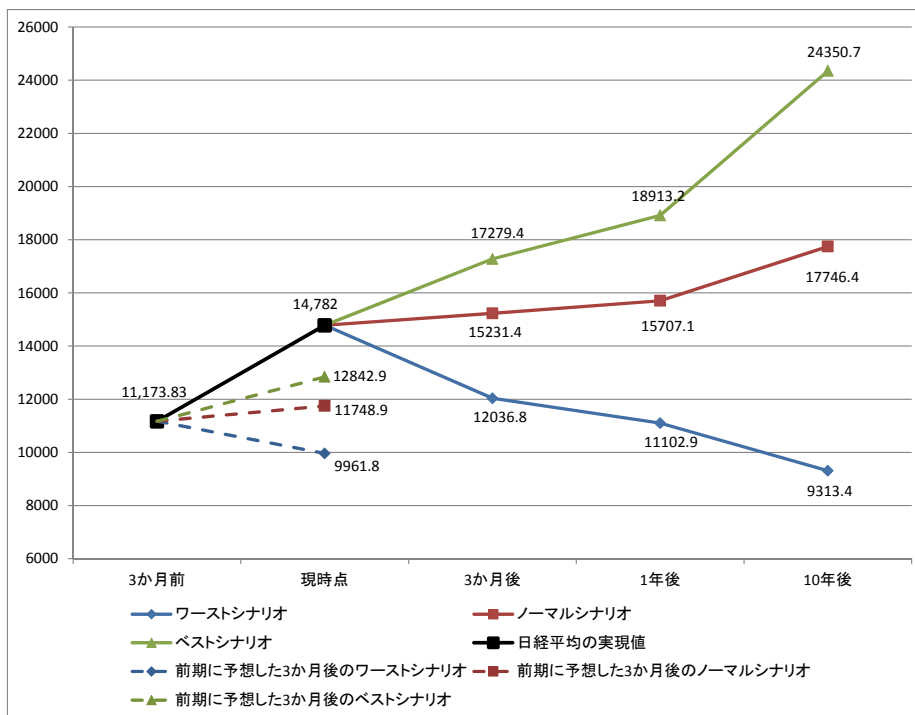


3. 日本の調査結果

あなたは前の四半期（2013年1～3月期）と比べて貴社の先行きについて楽観的ですか？それとも悲観的ですか？



2013年5月13日の日経平均株価は14,782円でした。10年後、1年後、3か月後に日経平均株価はそれぞれ何円になっていると思いますか？



《今回の調査結果のポイント》

- 日本以外の地域においては、自社の業績に対する楽観度指数が自国経済に対する楽観度指数を上回っているのに対し、日本においては自国経済に対する楽観度指数（66）が、自社の業績に対する楽観度指数（55）を大幅に上回るという結果になった。この点に関連し、デューク大学フュークワ・スクール・オブ・ビジネスのグラハム教授は、次のようにコメントしている。

「これは、おそらく、安倍晋三新首相と彼の推進する積極的な金融政策および財政支出が、産業界に好印象を与えていることを反映していると考えられる。しかしながら、日本企業が自社の製品価格は今年下落するだろうと予想していることは、政府の政策目標に反するものであり、懸念材料である。」（日本語訳）

- 今回は、企業の社会的責任（CSR）と持続可能性に関する質問も行っている。CSRが企業目標の中で、非常にあるいはかなり重要と回答した CFO の割合は、米国が最も低く 49%、欧州では 63%、アジアでは 67%（日本は 76%）、ラテンアメリカでは 76%、アフリカでは 83%という結果になった。

\*\*\*\*\*  
これは要約版です。サーベイの詳細な結果は、サーベイの回答者の方々のうち詳細レポートを希望された回答者の方々のみ直接配信しております。

サーベイについて：

サーベイの送付に当たっては、日本 CFO 協会、あずさ監査法人が主催する KPMG CFO CLUB®の協力を得て、主として両団体の参加企業の CFO、財務・経理幹部社員に送付されています。このうち、日本 CFO 協会を通しては、約 2500 通のサーベイへの協力依頼をメールで送付しています。日本に関するサーベイの実施概要および結果レポート等は、以下のホームページ（CFO サーベイの日本のホームページ）をご覧ください。

<http://www.me.titech.ac.jp/inouelab/cfosurvey.html>

本件に関するお問い合わせは、以下にお願い致します。

CFO サーベイ日本チーム

[cfosurveyjp@gmail.com](mailto:cfosurveyjp@gmail.com)